

平成30年度 第2回 技術部会

C1部会 平成31年2月9日(土)

全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項 =====

- 1 ○○31年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について
 - 2 ○○31年度 全国高校総体(鹿児島)の実施要項について
 - 3 ○○32年度 全国高校総体(山形)大会について
 - 4 ○○31年度 全国高校選抜(兵庫)の実施要項について
 - 5 ○○32年度 全国高校選抜(北海道)の競技日程について
 - 6 その他
- (1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
- ・種目別決勝における跳馬の1本跳越について(31年度から実施)
 - ・高校総体審判報告を日本体操協会HP掲載について(本年度は出来ず:要望事項)

==== 審議結果 =====

- 1 ○○31年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について
 - ・2019年度版高等学校男子適用規則について
 - 高校適用規則…平成30年度と**変更なし**
 - 2 ○○31年度 全国高校総体(鹿児島)の実施要項について
 - ・種目別決勝跳馬について…**1本跳越**
 - 3 ○○32年度 全国高校総体(山形)大会について
 - ・山形県からの要望をふまえて検討する
 - 4 ○○31年度 全国高校選抜(兵庫)の実施要項について
 - ・競技日の2班公式練習前にウォーミングアップの時間を入れてもらう。
 - 5 ○○32年度 全国高校選抜(北海道)の競技日程について
 - ・今年度の現状をふまえて検討していく。
 - ・あん馬・平行棒を2台設置の要望があった。
 - 6 その他
- (1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
- ・高校総体審判報告を日本体操協会HP掲載について(継続要望事項)

平成 30 年度 第 2 回 技術部会

C2 部会 平成 31 年 2 月 10 日(日)

全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項 =====

- 1 2019 年度 競技規則、採点規則の全国高校適用規則について
- 2 2019 年度 全国高校総体(鹿児島)の実施要項について
- 3 2020 年度 全国高校総体(山形)大会について
- 4 2019 年度 全国高校選抜(兵庫)の実施要項について
- 5 2020 年度 全国高校選抜(北海道)の実施要項について
- 6 その他

(1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等

- ・ 4-4-3 競技方法の検証(跳馬試技方法・競技前練習方法など)
- ・ マーク規定について
- ・ 大会 3 日目の競技運営方法について
- ・ 種目別選手権予選 1 名決勝進出について

==== 審議結果 =====

- 1 2019 年度 競技規則、採点規則の全国高校適用規則について
 - 2、服装等について
レオタードについて(公式練習も含む)
- 2 2019 年度 全国高校総体(鹿児島)の実施要項について
 - P.10 「1 競技方法」女子 チーム選手権 予選 跳馬は 1 本跳躍 → 跳馬は 2 本跳躍
 - P.11 「※9 女子の予選における競技前アップ…」
跳馬 チーム・個人一斉に 2 本ずつアップ後、1 本の演技 → 2 本の演技
 - P.23 「その他」
7 月 28 日(日)…本会場ならびにサブ会場への入場について…場内で器具慣れ・ウォーミングアップ程度までは認めます。…と記載要望
 - 撮影に関する注意事項の記載を要望
公式練習での撮影は原則禁止です。ただし、競技力向上のための自校撮影のみ許可します。
ネットワーク上に挙げることは、一切禁止です。
競技中の競技エリア内での撮影は、認められません。
- 3 2020 年度 全国高校総体(山形)大会について
 - 3 日目団体決勝 1 班目を 6 組編成はやめてほしい。
(5 組・5 組・6 組または、5 組・6 組・5 組)なら可能。
- 4 2019 年度 全国高校選抜(兵庫)の実施要項について
現行の通り
- 5 2020 年度 全国高校選抜(北海道)の実施要項について
 - 女子割当練習の時間までに審判会議を終わらせてほしい。
(新ルール適用の年のため)

6 その他

(1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等

- ・ 4-4-3 競技方法の検証（跳馬試技方法・競技前練習方法など）
鹿児島大会の通り
- ・ 大会3日目の競技運営方法について
現時点では従来通り
- ・ 種目別選手権予選1名決勝進出について
現時点では従来通り
- ・ 全日本選手権大会の出場枠について
インターハイ・選抜大会上位選手に出場枠を要望していきたい。

平成30年度 第2回 技術部会

C3部会 平成31年2月10日(日)

全国高等学校体育連盟体操専門部

====審議事項=====

1 平成31年度以降の個人手具の確認

	全国高校総体			全国高校選抜				
	手 具		開催地	手 具				開催地
2019 ○○元年度	スティック	リング	鹿児島	スティック	リング	ロープ	クラブ	兵庫
○○2年度	リング	ロープ	群馬	スティック	リング	ロープ	クラブ	北海道
○○3年度	ロープ	クラブ	新潟	スティック	リング	ロープ	クラブ	南九州
○○4年度	クラブ	スティック	四国	スティック	リング	ロープ	クラブ	

- 2 ○○ 元年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について
- 3 ○○ 元年度 全国高校総体（鹿児島）の実施要項について
- 4 ○○ 2年度 全国高校総体（群馬）の実施要項について
- 5 ○○ 元年度 全国高校選抜（兵庫）の実施要項について
- 6 ○○ 2年度 全国高校選抜（北海道）の実施要項について
- 7 その他

====審議結果=====

- 1 ○○ 元年度以降の個人手具の確認
 - ・上記のとおり。
- 2 ○○ 元年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について
 - ・変更なし。
 - ・2019年度規則改定を含む。→2019年4月より
- 3 ○○ 元年度 全国高校総体（鹿児島）の実施要項について
 - ・特記なし。
- 4 ○○ 2年度 全国高校総体（群馬）の実施要項について
 - ・特記なし。
- 5 ○○ 元年度 全国高校選抜（兵庫）の実施要項について
 - ・特記なし。
- 6 ○○ 2年度 全国高校選抜（北海道）の実施要項について
 - ・開会式の時程検討。
 - ・審判研修の時程検討。
- 7 その他
 - (1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
 - ・本会場内の審判研修（得点システム）は公式練習にかからないように（要望事項）
 - ・全国高校総体における著作権侵害について
 - (2) 男子新体操委員会より（山田委員長・前田副委員長出席）
 - ・国民体育大会の男子新体操について地域委員会では復活の方向に決定（2023年佐賀国体）
 - ※40都道府県で高校生5名以上の登録が必要
 - ※監督は全員が公認コーチ資格取得を強く要望

平成30年度 第2回 技術部会

C4部会 平成31年2月10日(日)

全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項 =====

1 平成31年度以降の手具の確認

個人手具の確認	全国高校総体	全国高校選抜大会
2019年度 (ボール) (クラブ)	(フープ) (ボール) (クラブ) (リボン)	
2020年度 (クラブ) (リボン)	(フープ) (ボール) (クラブ) (リボン)	
2021年度 (フープ) (リボン)	(フープ) (ボール) (クラブ) (リボン)	
2022年度 () ()	() () () () () ()	

団体手具の確認	全国高校総体	全国高校選抜大会
2019年度 (フープ3・クラブ2組)	(フープ3・クラブ2組)	
2020年度 (フープ3・クラブ2組)	(クラブ5組)	
2021年度 (クラブ5組)	() ()	
2022年度 () ()	() () () () () ()	

団体手具の確認	国民体育大会	個人手具	
2019年度 (フープ3・クラブ2組)	(フープ) (ボール) (クラブ) (リボン)		2019年
2020年度 (フープ3・クラブ2組)	(フープ) (ボール) (クラブ) (リボン)		2020年
2021年度 (クラブ5組)	(フープ) (ボール) (クラブ) (リボン)		2021年
2022年度 () ()	() () () () () ()		2021年

- 2 2019年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について
- 3 2019年度 全国高校総体(鹿児島)の実施要項について
- 4 2020年度 全国高校総体(群馬)の実施要項について
- 5 2019年度 全国高校選抜(兵庫)の実施要項について
- 6 2020年度 全国高校選抜(北海道)の競技日程について
- 7 その他

- (1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
- ・ 競技前のコールは第1コールのみで良いのではないか
 - ・ 高体連の全国大会は競技中の撮影は原則禁止
 - ・ 全国高校総体における著作権侵害について

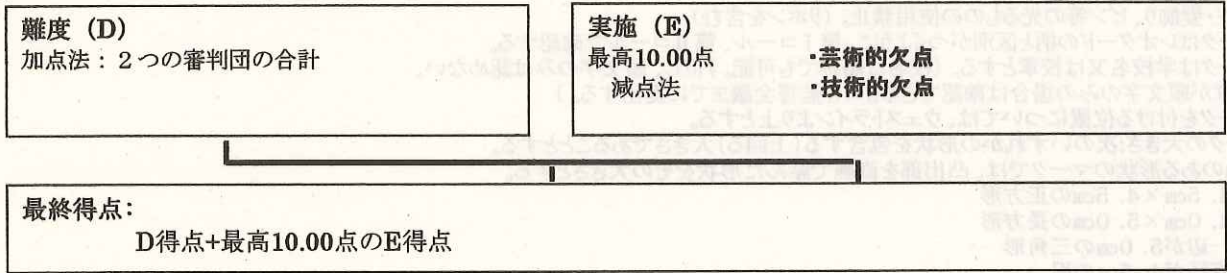
==== 審議結果 =====

- 1 平成31年度以降の手具の確認
上記通り
- 2 2019年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について
 - ・ 服装について
 - ⑤ (校章が頭文字のみの場合は確認できるものを監督会議までに提出する。)・・・追加
 - ・ 審判編成基準
別紙参照
 - ・ 手具の規格について
来年度の部会にて決定。2019年度は従来通り。
- 3 2019年度 全国高校総体(鹿児島)の実施要項について
 - ・ 第1コールのみ 個人40分前、団体22分前
 - ・ 団体競技日の割り当て席について 昼食時間で入れ替え
 - ・ 一般観客の入場抽選の実施・・・昨年静岡総体同様
- 4 2020年度 全国高校総体(群馬)の実施要項について
 - ・ 特になし
- 5 2019年度 全国高校選抜(兵庫)の実施要項について
 - ・ 3月18日(水)の日程変更 審判会議研修を2日遅らせて前日入り不要にしたいよう
- 6 2020年度 全国高校選抜(北海道)の競技日程について
 - ・ 兵庫大会を準じる。
- 7 その他
 - ・ 競技前のコールは第1コールのみとする
 - ・ 高体連の全国大会は競技中の撮影は原則禁止
 - ・ 全国高校総体における著作権侵害について

*2017～2020年版(公財)日本体操協会競技規則・採点規則・シニアルールを適用する。

総則

点数配分と計算



個人演技【得点の配点】

難度(D) (加点)	実施 (E) 10点満点 (減点)	
・身体難度(BD) 最低3個 最も高いものから9個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプハ バランス T ローテーション o) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・ダンスステップコンビネーション(S) 最低1つ 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・回転と投げを伴ったダイナミック要素(R) 最低1個 最高5個 ・手具難度(AD) 最低1個	芸術的欠点 芸術的構成 ・構成の統一性 アイデアのガイド:特徴 つなぎ ・音楽と動き リズム ダイナミックな変化 ・身体の表現 ・多様性	技術的欠点 ・身体の動き ・手具の技術

団体演技【得点の配点】

難度(D) (加点)	実施 (E) 10点満点 (減点)	
・交換を伴う難度と伴わない難度 最高9個(実施順に) 交換を伴わない身体難度(BD) 最低4個 交換を伴う交換難度(ED) 最低4個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプハ バランス T ローテーション o) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・ダンスステップコンビネーション(S) 最低1つ 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・回転と投げを伴ったダイナミック要素(R) 最高1個 ・連係(C) 最低4個 身体の回転を伴わない連係/身体の回転を伴う連係	芸術的欠点 芸術的構成 ・手具/選手の接触 ・構成の統一性 アイデアのガイド:特徴 フォーメーション間の移行 ・音楽と動き リズム ・ダイナミックな変化 ・身体の表現 ・多様性	技術的欠点 ・身体の動き ・手具の技術

高体連ルールについて(2019年2月決定)

1. 許容について

①伴奏音楽について

団体や個人に言葉を使った伴奏音楽を用いて良い。個人は2種目中2種目に利用できる。国体の個人競技では1チーム最大4名に言葉を使った伴奏音楽を用いても良い。

②団体のリボンの長さは5m50cm以上とする。

2. 服装について

- ①レオタードについては日本体操協会採点規則を適用する。
- ②練習着については、素肌を出さないことを条件に、セパレートタイプの着用を認める。
(キャミソールタイプの細い肩ひもは認めない。)
- ③化粧・髪飾り、ピン等の光るものの使用禁止。(リボンを含む)
- ④マークはレオタードの柄と区別がつくように、第Iコール、第IIコールで確認する。
- ⑤マークは学校名又は校章とする。(校名は略称でも可能。)但し、頭文字のみは認めない。
(校章が頭文字のみの場合は確認できるものを監督会議までに提出する。)
- ⑥マークを付ける位置については、ウエストラインより上とする。
マークの大きさ:次のいずれかの形状を包含する(上回る)大きさであることとする。
凹凸のある形状のマークでは、凸出部を直線で結んだ形状をその大きさとする。
(1)4.5cm×4.5cmの正方形
(2)4.0cm×5.0cmの長方形
(3)一辺が5.0cmの三角形
(4)直径が4.5cmの円
(5)一辺が4.5cmで辺の交わる角度が60°と120°の菱形
- ⑦服装減点…0.3

《同点順位の決定方法について》

団体競技

- 1. Eスコアの高いチームを上位とする。
- 2. (上記1)において同点の場合、最も低い技術減点(ET)を有するチームを上位とする。
- 3. (上記2)においても同点の場合、Dスコアの高いチームを上位とする。
- 4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)

個人競技

- 1. 2種目のEスコアの合計が高い選手を上位とする。
- 2. (上記1)においても同点の場合、2種目において技術減点(ET)が低い選手を上位とする。
- 3. (上記2)においても同点の場合、2種目のDスコアの合計が高い選手を上位とする。
- 4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)
- *全国選抜個人競技については(公財)日本体操協会採点規則にある通りとする。(競技規則5.2.1.2 個人総合決勝)

団体における同点順位決定方法

- 1.個人4種目のEスコアの平均と団体のEスコアの合計が高いチームを上位とする。
- 2.(上記1)においても同点の場合、個人4種目の技術減点(ET)スコアの平均と団体の技術減点(ET)スコアの合計点が高いチームを上位とする。
- 3.(上記2)においても同点の場合、個人4種目のDスコアの平均と団体Dスコアの合計点が高いチームを上位とする。
- 4.(上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)

審判編成基準

* 開催県審判は最大2名とする。

審判長/副審判長(審判本部)

個人技	種目A	D1	D2	D3	D4	E1	E2	E3	E4	E5	E6
	種目B					E1	E2	E3	E4	E5	E6
団体技	団体	D1	D2	D3	D4	E1	E2	E3	E4	E5	E6
線審(2名)						開催県					
計時(2名)						開催県					
補審(1名)						開催県					
CJ(1名)						開催県					

※補審:競技中はCJの補佐を行う。